

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

日本医師会雑誌（2011.06）140巻特別号（1）:S200～201.

【画像診断update 検査の組み立てから診断まで】
疾患
呼吸器 主要疾患の診断
転移性肺腫瘍

高橋康二

2 主要疾患の診断

23 転移性肺腫瘍

Lung metastases

高橋 康二
Koji Takahashi

- 症例 1 : 50 歳代, 女性. 胸部 X 線写真で異常影を指摘された. 乳がんの既往がある (図 1, 2).
- 症例 2 : 60 歳代, 男性 (図 3).

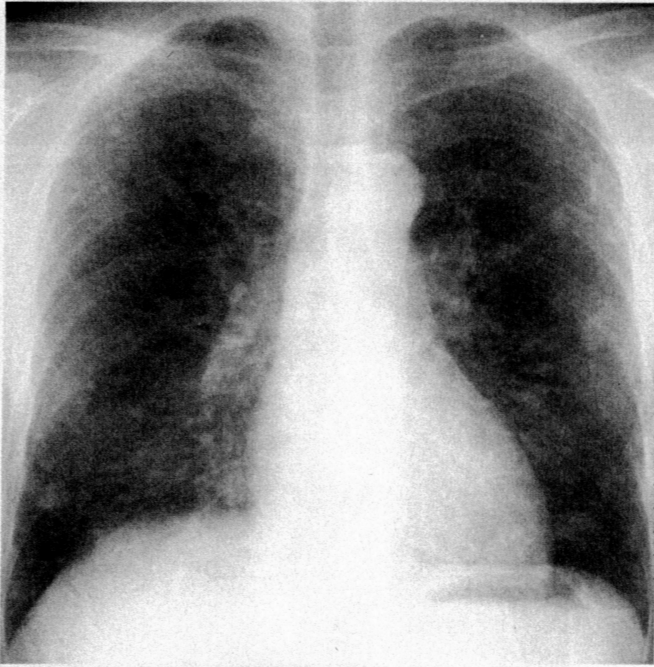


図 1 症例 1 : 胸部単純 X 線像
両側肺に多発性に結節陰影を認める.

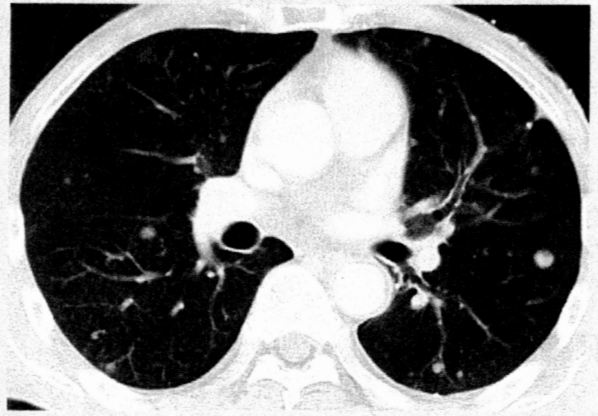


図 2 症例 1 : 胸部単純 CT 像
両側肺の末梢にさまざまなサイズの平滑な結節病変を多数認める.

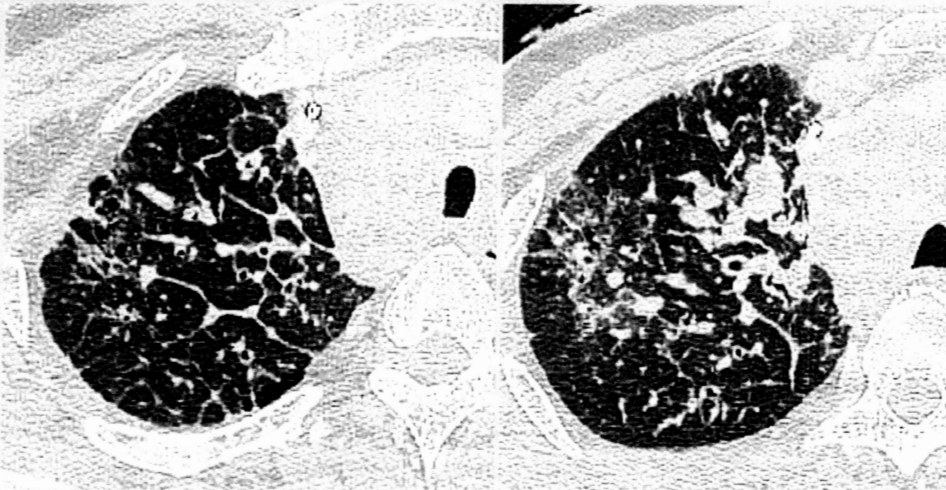
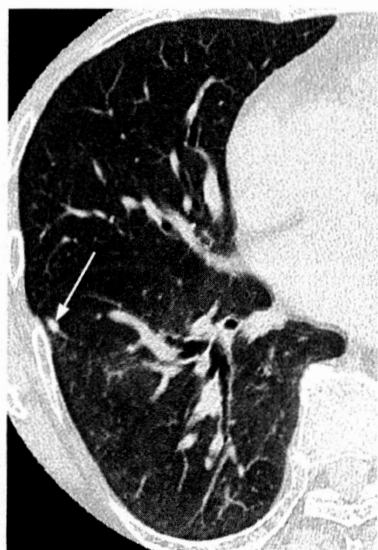


図 3 症例 2 :
胸部単純 CT 像
右肺上葉に小葉間隔壁の肥厚, 気管支血管束の肥厚, すりガラス状変化を認める. 縦隔は転移リンパ節により拡大している.



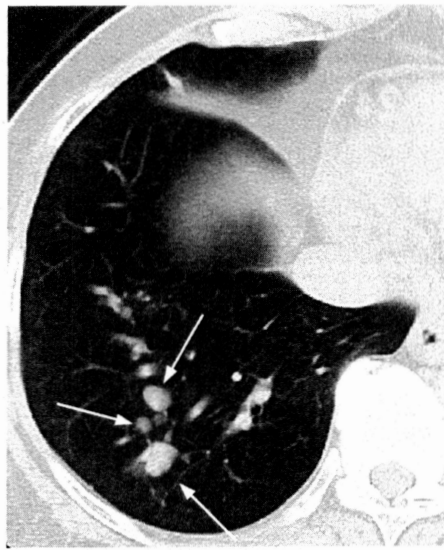
【図4】 陳旧性肉芽腫

60歳代，男性．単純CT像．左肺上葉に石灰化結節(⇒)を認める．



【図5】 肺内リンパ節

50歳代，男性．単純CT像．右肺下葉の外側胸膜下に数mm大の結節(⇒)を認める．



【図6】 クリプトコッカス症

60歳代，男性．単純CT像．右肺下葉に多発性に平滑な結節病変(⇒)を認める．

解説

肺は肝臓や骨とともに遠隔転移の頻度の高い臓器であり，悪性腫瘍の治療前の臨床病期の決定や治療後の経過観察において，肺転移の評価は重要である．肺転移の原発病巣としては，乳がん，結腸がん，腎がん，子宮がん，前立腺がん，頭頸部がんの頻度が高い．

転移性肺腫瘍(図1,2)では，辺縁の平滑な数mm～数cmの多発性の結節が肺の末梢側優位にみられる．腺がんからの転移や周囲の肺に出血を伴う場合は，境界不明瞭な浸潤陰影様の所見を示すことがある．骨肉腫や軟骨肉腫，また消化管の粘液産生腫瘍からの転移では，石灰化を認めることがある．頭頸部や子宮頸部の扁平上皮がんからの転移では転移巣に空洞形成を認めることがある．精巣の胚細胞腫瘍の転移では，化学療法後により腫瘍細胞が消失した後に壁の薄い嚢胞となることがある．

肺のがん性リンパ管症(図3)は腫瘍がリンパ管内を浸潤する病態で，通常肺への血行性転移巣の間質やリンパ管への浸潤により生じるが，肺門や縦隔リンパ節から直接リンパ管

へ進展することもある．CTで小葉間隔壁の肥厚や気管支血管束周囲間質の肥厚を認める．

■ 鑑別疾患と鑑別のポイント

- 陳旧性肉芽腫(図4)：わが国では結核が大部分であり，肺に石灰化結節を認め肺門や縦隔にも石灰化リンパ節を認めることが多い．石灰化を伴わない場合には，転移巣との鑑別は難しいことがあり，過去画像との比較や経過観察が必要となる．
- 非結核性抗酸菌症：気管支拡張症や小葉中心性粒状変化以外に，1cm前後の複数の小結節を認めることがある．経気道性に散布した肉芽腫病変であり，中枢側の気道を中心に集簇性に分布していることがランダムに分布する転移巣との鑑別点となる．
- 肺内リンパ節(図5)：中葉，舌区，下葉に頻度が多く，胸膜下または胸膜に接する1cm弱の結節としてみられ，辺縁は通常平滑であるが，時に不整であることもある．
- クリプトコッカス症(図6)：1～5cm大の単発から多発の結節病変を下葉に認めることが多い．結節が同一肺葉内に分布することが多く，転移巣との鑑別点となりうる．